

音楽教 人物伝

福本 康之

黒瀬 知圓 (1886 ~ 1961)

Chien Kurose

児童教育に尽力した
「日曜学校同人」の1人

讃仏歌を生み出した人々

です。

こうした状況は、他の同時期に発表された作品についても見られるもので、真宗門徒になじみの仏教讃歌《みほとけにいだかれて》のように、時の流れのなかで作詞者がわからなくなり、現在に至っている作品も少なくありません。むしろ《報恩講の歌》のように、作詞者が確認できる作品の方が稀というべきかも知れません。

の作詞者として、黒瀬をはじめ、道元浄見、掬月晴臣、堀川成道、梅原真隆などの名前が見られます。また、彼らが「日曜学校同人」として協力しながら讃仏歌という新たな音楽作品の作詞に取り組んだ様子もうかがわれます。作品によっては作詞者が個人名ではなく「日曜学校同人」とされるものもあり、こうした協同作業のゆえとも推測されます。

作詞から半世紀以上を経て西秀寺に歌碑が建てられたことは、黒瀬作詞の《報恩講の歌》が、いかに多くの人々に親しまれてきた作品であるかを物語っています。それは同時に、黒瀬をはじめとする多くの人たちが、児童のために協力し合い、創作に取り組んでいた証でもあるのです。そうした先人の想いを伝えるべきなのではないでしょうか。（本願寺派総合研究所 仏教音楽・儀礼研究室長）

瀬戸内海の西端、周防灘を望む山口県宇部市の高台に、「♪和歌の浦和の片男波の〜」で知られる仏教讃歌《報恩講の歌》の歌碑があります。1993年に、この歌の作詞者で日曜学校運動に尽力し、教師でもあった黒瀬知圓ゆかりの西秀寺に建立されたものです。

年に日曜学校の児童用讃仏歌として、歌集『サンブツ歌』(興教書院刊)に発表された当時、作詞者である黒瀬の名は見られませんでした。その背景には当時、作詞者などの名前が楽譜や歌集に記載されないことも珍しくなかったことがあります。作詞者として黒瀬の名が初めて記されるのは、発表から25年を経た1940(昭和15)年刊行の『仏教讃歌集』(興教書院刊)



親鸞聖人が記されたと伝えられる「御臨末の御書」を基に《報恩講の歌》を作詞した黒瀬知圓の33回忌にあわせ建立された歌碑。

時に、黒瀬をはじめとする多くの人たちが、児童のために協力し合い、創作に取り組んでいた証でもあるのです。そうした先人の想いを伝えるべきなのではないでしょうか。（本願寺派総合研究所 仏教音楽・儀礼研究室長）